

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
1	吸収統合ではなく、両校が新しい学校をつくっていくという発想で行くということですね。 新しい学校をつくるイメージということですが、校名を変えたり校章を変えたり、制服をどちらかの制服にまとめるのか、両校の制服とは異なる新しい制服とするのか、また、校歌を変えたりといったことを含めてのイメージであります。結果的に大正中という校名になるかもしれませんが、大正中に行くという記載をすると、大正中に吸収されたという印象を受けるかも知れませんので、結果的にどうなるかは分かりませんが、今言ったようなことが交渉のテーブルに乗るのかなと思います。 今まで両校に伝統それぞれありますので、その伝統や良いところを融合させていって、例えば校名は変わらず大正中であっても、新生大正中というイメージでいくということです。 全て大正中に染まるのではなくて、お互いの保護者が話し合いながら、良いところを活かすイメージです。
2	先日、北ノ川で保護者説明会を実施されたかと思いますが、保護者の反応はどうでしたか。 来られていた保護者の数で言いますと少なかったですね。事情があって来れなかったのか、統合に関心がないのか、理由は分かりませんが、小学校は分かりませんが、中学校は統合は一定やむを得ないのかなといった印象を受けたところです。ただ、条件面ですよ、統合する上で子どもや保護者が納得するような新しい学校のイメージが見えないであるとか、こういう約束はしてくれるのか等の条件面での話がありました。統合の方向に向かっているのかなという印象は受けました。これから協議を重ねていろいろと細部を詰めなければならないところです。
3	具体的に懸念されるところは、どういうところでしょうか。 いろいろありますね。新しい学校をつくるイメージ。イメージはあるけど、小さい学校は人数が少ないですので、例えば交渉のテーブルに着いたときに多数決で否決されるのではないかと、そうならないように配慮が必要かと思いますが、そういうご意見があったかと思いますが。 過去において、統合した側の学校の方を主に考えていくといったことがあったようなイメージを持たれておられるので、そういうところを心配されておられました。 保護者としては、統合される側の学校の保護者が少人数ですので、大人数には敵わないので考えてもらいたいという意見がありましたので、保護者だけの会ではなく、ある一定教育委員会も入ってもらって、その中での会議を進めてもらいたいというご意見がありました。 中学校の統合があと1年ちょっとしかないですので、年明けくらいから本格的な協議の場を設定したいと思います。いま、中学校で問題になっているのは、北ノ川中と大正中、興津中と窪川中ですので、それには精力的に入っていきたいとお答えしたところです。
4	基本的にはお互いが知恵を出し合って、新しい学校をつくるんだということが基本的なスタンスであるということですね。 例えば校名は最終的には大正中になるかもしれませんが、大正中であっても新たな大正中というイメージで行くということです。
5	統合は子どもの数がないので仕方ないと思います。 -
6	北ノ川の子供が田野々に来ますか。窪川へ行く子どももいそうですが。 特に中学校については、保護者の中でも窪川の方を考えるということにはなりませんかと話がありました。ただ、地域性を活かして、旧の大正町、十和村、窪川町それぞれ地域性は大事にしていかなければいけないということで、計画にあたっては、審議会に諮問して、答申もいただいたところですが、地域性を大事にするということで旧の町村単位で小中学校はそれぞれ残していかなければいけないということで、北ノ川は窪川方面へ働きに行かれている方がいるということで、また部活動の面であるとかという話もあったんですが、本計画において地域性は大事にしていきたいということで中学校は大正中へということになります。小学校は川口小もありますので、川口小と北ノ川小との話も出ておりましたが、小学校よりは中学校の方を心配されていた印象です。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
7	かつて、大正中と大奈路中が統合した時の話ですが、いろいろ保護者間の中でいろいろな想いがやっぱりあって、行政の方で進めていく部分と、保護者が置き去りにされないような役員同士の繋がりをみたいところもすごく大事にしてもらいながら、大正中の校長室で話を結構したんですよ。 現に、今日来ている保護者の方少ないですし、行政がやることだからということでもなく、保護者の想いっていうのも掘り出した方が、よりお互いに近づけるのではないかなと思います。 実際、大奈路が少なかったのも、統合にはなったんですが、何年間か時間を要しましたし、保護者同士の関係性みたいなものもすごく大事にしていかなければいけないと思います。 大奈路保育所が無くなって、認定こども園に来るようになって、知らない間に一つになってきたので、時間が経てば、状況としては当たり前のような空気になってくるんだと思います。 打井川小が田野々小へ来たように、打井川小から北ノ川小へ来たように、子どもによって分かれたりした経緯もありますので、保護者の気持ちっていうのは大事だと思います。 統合はしょうがないではなく、その中で保護者がどういうスクラムを組めるのかな、そういうところが大事かなと思います。 ともに新しい学校をつくるイメージ、それが正にいま言われたようなことではないかなと思います。想いを共有して、つくっていく。新しい学校のイメージというのは想いを共有することではないかなと思います。 人数が少ないので大正中や田野々小にきいやとかではなく、先ほどお話出していたPTAや保護者同士が想いを共有することが大事だと思います。
8	理解し合える場が必要ですね。保護者がここの説明会にいないので、何らかの形で場を設けるとかやっていかないと繋がっていかないとかなと思いました。 ともに新しい学校をつくる、本当にそこだと思います。大事にしていかなければならないし、PTA同士もそうですし、生徒同士も、小学校はもう少し先にはなりますが、交流の機会を設けていこうとか、そういう場も設けていく必要があると思います。保護者がまず安心して、学校に行くにあたって、一番保護者が心配をしますと思うので、そういった部分でも話をしながら、ともに新しい学校をつくるというところで、想いを共有していきたいと思います。
9	学校関係者って行政人の一人ですよ。配置がこうですよ。こうでしょう。って言ったら粛々とやっていく、これが基本的なスタンスです。 ただ、適正が何なのかなと考えたときに、田野々小ではいまの子どもたちに教職員が目をつかかせて教育に一生懸命向かってますが、この規模が北ノ川はもう少し小さい、でもその小さい中でやっぱり同じように子どもに想いを致して、育てていっている。そうすると、それはそれで適正なのではないかなという想いもまたあって、その辺が、すっかりしきらない、自分自身が目の前の子どもをこう育てようって考える、その一人として見るのと、校長として学校を預かっている立場で行政人として考えたときとは、ジレンマがあります。 ただ、新しい学校をつくらうという発想は、素敵だなと思っていて、このことが決まってよしやろうになったら、みんながこの地域でしかない学校をつくっていけたらなと思います。 今回の統合とは直接関係ないんですが、認定こども園・田野々小・大正中とで教育課程を考えていこうかという話をしております、子どもたちをこれから先、将来に向かって、どんな子に育てていこうかということについては、柱建てというかその辺はやっていこうという実態です。 教育課程のところまで話もしていただいて、ありがとうございます。それぞれ中学校と小学校の方でも適正配置実施後の各学校の魅力・特色というところも記載してありますが、まだまだそれぞれの学校の良さもあるし、地域性というところもありますので、記載していけば一つ一つ何かにも入ってきたら分かりにくい面もあるということで、良さを取り入れながら、教育課程というところを大正地域で、また大きなところは四万十町の柱というところもあります、この地域にしかない学校をつくっていきたいということで、認定こども園・田野々小・大正中で作り上げていっていただきたいと思います。これは、北ノ川が田野々小に来るという前提の下での話ではありますが、想いを聞かせていただきました。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
10	大正地域の子どもたちをどうやって育てていこうかという話がありましたが、認定こども園と田野々小・大正中・四万十高校とで、同じ地域の中で歩いて行ける距離に保幼小中高があるという地域は県下でもあまりないので、だから四万十高校は残してほしい想いもありますし、その子たちがまた大正の町へ帰ってきてほしい、四万十町へ帰ってきてほしい、そういう流れの中でどうやって子どもたちをそういう想いになるように育てていけるか、どうやっていこうかというところを今考えているところです。 認定こども園は四万十高校の3年生と、いのちの学習をしています。それを小学校と中学校の家庭科を中心に発信をさせていただいているところです。今年限りになるかもしれないし、違う形で来年に繋がっていく可能性もあると思いますので、挨拶がすごくできているって、町外から来られた方が仰って下さる。そういう子どもたちも育てていこうよと、そんなことだけでも大事な、繋がっていくことは大事なことだと受け止めながら、教育課程をどうやってやっていったらいいかということを模索している状態です。 大奈路は大奈路で、毎年子ども祭りをやっていますし、各地域が地域をすごく大事にしている、学校が無くなること自体が地域が寂しくなる要因ではあるので、地域へのフォローも大事なことだと思いますし、北ノ川も毎年夏まつりをやっていますし、ずっと続けて、地域性のあることを続けているので、統合になった後でも、地域を大事にすることも大事だと思うし、そこも含めて、子どもたちに帰ってきてほしいということも考えながら、子どもたちを育てていきたいと思います。 保幼小中高の連携は大正地域の強みですので、非常に大事なところを仰っていただいたのかなと思います。窪川地域の中でも松葉川というところがありまして、青年団も復活して、志和という地区も窪川にあって、海岸部ですが、小学校は廃校になりましたが、そういうところも地域の動きの中で、子どもたちが帰ってきて、あるいは町外に出ている方に帰ってきていただいて、ふるさとの良さに癒されて、それぞれに活躍していただく。帰って来れる場を、迎える場ができていくということは非常に良いことだと思います。 町の方では、移住定住対策も行っておりますが、Uターン対策もいろいろ考えている中で、このことは町長も一緒に回っていく中で話として出てくるかとは思いますが、地域づくりの方は地域づくりの方で考えていっていただいております。嬉しく思います。
11	保護者の中で、学校統合は話題になっていますか。 なっていません。年代的に私は統合にかかる年ではないので、そんなこともあるのではないのでしょうか。
12	- ただ、大正中も田野々小も現在は適正規模を満たしているかもしれませんが、ゆくゆくは必ず適正規模を満たさなくなると、存続すら危ぶまれていくことは目に見えてきているので、大正中・田野々小の保護者の皆さんも危機感を持たないと、北ノ川を受け入れるのではなくて、ウェルカムな気分で来ていただくというような気持ちでないと一緒にやっていくことは厳しいような気がします。